

人生100年時代を支える

住まい環境整備モデル事業

令和3年度 事業者交流会 記録

開催日時	令和4年3月16日(水)13:30~15:30	
開催方法	ZOOMによるオンライン開催	
プログラム	(敬称略)	頁番号
1. 開会		2
(1)挨拶 上森 康幹 (国土交通省 住宅局 安心居住推進課 課長)		2
(2)挨拶 高橋 紘士 (住まい環境整備モデル事業 評価委員会 委員長)		2
2. シンポジウム		3
(1)事業の実施報告		3
①サツキ PROJECT 西日本豪雨で被災したアパートを地域の防災拠点住宅に再生する 三喜株式会社 (令和元年度・課題設定型等)		3
②空き家を活用した「としま福祉支援プロジェクト」 一般社団法人 コミュニティネットワーク協会 (令和元年度・課題設定型等)		4
③インクルーシブな多世代交流拠点の計画・運営のためのコンソーシアムの構築 今野不動産株式会社 (令和2年度・事業育成型等)		5
(2)クロストーク コーディネーター 三浦 研(評価委員会 委員)		6
①実施報告を受けて(各提案の感想・評価)		7
②クロストークで議論したい2つのテーマ		8
③本日のまとめにかえて		12
3. 閉会		12
参加者	選定事業者	27事業者 ・住まい環境整備モデル事業採択事業者:20事業者 ・スマートウェルネス住宅等推進モデル事業・高齢者等居住安定化モデル事業採択事業者:7事業者
	評価委員 (敬称略)	高橋 紘士 (委員長 東京通信大学 教授) 三浦 研 (委員 京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授) 山田 あすか (委員 東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授)
主催	国土交通省住宅局安心居住推進課／住まい環境整備モデル事業評価事務局	

1. 開会

(1)挨拶 上森 康幹（国土交通省 住宅局 安心居住推進課 課長）

「人生 100 年時代を支える住まい環境整備モデル事業」は、前身事業を含め、今年度で 13 年目となります。これまで数多くの事業を採択し、他の事業の範となるような事業も多く出てきています。

事業者交流会は、令和 2 年度から実施する取組みで、事業の実施やその遂行にあたって、先導性や実現性のヒントを得ていただき、事業効果を高めることを目的としています。

また、今日は学識経験者の皆様方からのアドバイスを得る機会であるとともに、過年度の採択事業者様から事業の途中経過やその成果等を意見交換する場ともなっており、参加の皆様においても改善点の認識や積極的な取組の促進に寄与することを期待しているところです。

(2)挨拶 高橋 紘士（住まい環境整備モデル事業 評価委員会 委員長）

本モデル事業も 13 年目に入り、一般に定着してきていると思います。モデル事業は、単なる補助金事業ではなく、地域の様々な独創的、先駆的な取組を応援するもので、選定された提案には、いずれも「この事業で地域の課題を解決したい」という当事者の意識を強く感じます。

モデル事業の役割は、大きく二つあると思います。ひとつは「既存の事業運営では打破しにくいものに対し、モデル事業を通じて、新しい風を入れること」、もうひとつは「そうした新しい取り組みは、事業採算面で成立しづらいため、国庫補助を通じて、事業採算ベースを軌道に乗せるためのサポートをすること」。

評価委員会では、様々な評価や議論をしながら、提案案件を審議してきました。選定された皆さんの提案事業は、同様な問題を抱える他地域の参考やヒントになるように取り組むとともに、自身の提案事業の成果をホームページ等で情報発信し、対外的に展開していただきたいと思います。

ここ数年間の新型コロナウイルス感染症が与えた影響は大きく、これまでの発想の延長では、うまくいかない課題もあります。最近のグローバリズムの中で起こった様々な課題も、そうしたことを象徴していると思います。地域の様々な課題に向かい合い、地域に根差しながら解決していくことが重要であり、そのための位置づけが本モデル事業にあると思います。本モデル事業では、選定された事業者の方々から住まいと住まい方のイノベーションの担い手として、活動を継続していくことを期待しています。今後も皆様からの提案が、社会にインパクトを与えてくれることを願っています。

今日は、採択事業の中から、先行している事業、個性的な事業として 3 事業をご紹介します。皆様のこれからの事業遂行にお役立ていただければと思います。

2. シンポジウム

(1)事業の実施報告

①サツキ PROJECT 西日本豪雨で被災したアパートを地域の防災拠点住宅に再生する

(代表提案者:三喜株式会社/令和元年度・課題設定型等選定事業)

発表者 津田 由起子(三喜株式会社(ぶどうの家・チームサツキ) 代表取締役社長)

●提案事業の概要

平成 30 年の西日本豪雨で被災した倉敷市真備町。高齢者や障害者は共助・互助のサポートがなければ住み慣れた地域に戻ることが困難な状況。本提案は、被災後放置されている賃貸住宅を避難機能付き共同住宅として再整備。災害弱者の住まい、地域の交流拠点、災害時の一時避難場所等のハード機能に併せ、災害弱者と地域住民が日常的に助け合えるソフト機能も導入。整備・運用・広報することで、真備町内や全国の水害リスクが高い地域への普及展開を目指す。

●事業実施報告のポイント

◇取組の背景・提案内容

○西日本豪雨災害で亡くなった方は、高齢者が多い。

- *真備町でお亡くなりになった方の51名のうち、
65 歳以上の高齢者は 45 名

○被災者の方々は「将来の被災の不安はあるが、真備町に戻りたい」という要望が強く、身近に被災時に垂直避難できる避難場所の確保が課題。

○避難機能付き共同住宅の整備(2020 年 6 月完成)。

- *被災アパートの活用
- *本モデル事業とクラウドファンディングを活用した資金調達

◇取組の成果、今後期待される効果

○整備した「コミュニティルーム」は防災活動だけでなく、近隣住民が集える日常空間の一部として活用。

- *アパートの住民と近隣住民が集い・繋がる仕掛けづくり

○有償ボランティアによる「助け隊ありが隊」等を通じて、本拠点から地域に展開(2020 年 8 月活動開始)。

- *避難する時の要配慮者の方を中心とした「地域連携型マイタイムライン」*の取組み

※災害が起こることを想定し、時間を遡り何時までに何をすべきかの行動計画。当該活動では、要配慮者に限らず、地域の方々みんなで考えようと、小さな地域単位で取り組みを検討している。

◇今後の取組みの方向

○アパートの住民も町内会の一員として参画しながら、地区防災計画づくりの展開。



↑事業実施報告の 슬라이ドはこちらをクリックして閲覧してください。

●質疑応答概略

○入居者の募集方法や入居者同士の生活状況について教えてください。

☞現在、7部屋全て埋まっています。公営住宅の被災者枠で漏れた2世帯が入居しましたが、それ以外は、口コミ。既に入れ替わりはあり、中には自宅再建され、退去された方もいます。こうした助け合いの暮らしを求めて、他県から来られる方や、若者でルームシェアする人もいます。

入居者は家族みたいで誰かが困ると手助けしてくれます。認知症の方について、我々に状況報告や相談にも来てくれる。スロープから見える住まいの方が遠景に、と花を植えてくれたことや、幼稚園の行事に誘い合ってくれる等、実にアットホームな感じで過ごしています。

②空き家を活用した「としま福祉支援プロジェクト」

(代表提案者:一般社団法人 コミュニティネットワーク協会/令和元年度・課題設定型等選定事業)

発表者 渥美 京子(一般社団法人 コミュニティネットワーク協会 代表理事)

●提案事業の概要

東京都心部では、高齢化、孤独死、生活困窮者の増加等の課題、本事業対象地の豊島区では、単身世帯の割合が東京 23 区内で最も高く、引きこもりや子どもの貧困、障害者、生活困窮者等の問題も顕著。本提案は、空き事務所を「交流拠点」に活用するとともに、地域に点在する空き家をセーフティネット住宅として活用するもの。高齢者、障害者、生活困窮者等が安心して暮らせる仕組みを創設することで、共生型コミュニティと地域包括ケアの仕組みの構築を目指し、今後、他の地域への展開の普及を目指す。

●事業実施報告のポイント

◇取組の背景・提案内容

- 交流拠点整備(利便の良い駅前の空き室活用)
- 共生ハウス西池袋(4室・2020年開設)、共生ハウス池袋2丁目(6室・2021年開設)

- *豊島区的生活困窮者は、再開発の立ち退き高齢者が多い
- *セーフティネット住宅の供給は不安を抱える家主の問題が大きい。そのため、建物1棟の借り上げを試みた。
- *当法人は、居住支援法人であり、居住支援協議会等、地域の主体と連携し居住支援を提供

【取組みの工夫】

- 交流拠点の運営には、複数事業を組み合わせた事業採算性を確保している。
- *自主事業(健康麻雀、卓球事業)/介護保険事業(総合事業通所型サービス B~麻雀サロン、将棋サロン、他)/障害者事業(就労継続支援 B 型事業所)予定
- 都心部で床賃料が高い立地特性から、公共床を活用し、費用負担を抑えた拠点運営を工夫(雑司ヶ谷公園丘の上のテラスとの連携)。
- その他(参加型クラウドファンディングの活用、地域の方々とDIYで交流拠点の整備)



↑事業実施報告のスライドはこちらをクリックして閲覧してください。

◇取組の成果、今後期待される効果

- シェアハウスの入居者の「ごちゃまぜ」のコミュニティはトラブルもあるが、緩やかな助け合いができた。
- 入居者による「介護保険総合事業通所型サービス B」の立ち上げ

◇今後の取組みの方向

- コロナ禍における生活困窮者の増加に対応した住まい整備
- 行政との連携強化(家賃低廉化事業の普及、高齢化に伴う福祉連携・看取り体制の強化等)
- 働きたい人への就労機会の創出(居住支援協議会との連携)

●質疑応答概略

- 我々も生活困窮者のグループリビングに取り組んでいるが、公的支援金の活用内容を教えてください。
☞セーフティネット住宅の改修費補助(国・自治体)。豊島区の家賃低廉化補助制度を活用。
- シェアハウスを選択する人の特徴について教えてください。
☞他人との共同生活が無理な人は向いていないが、ワンルームでは一人でさみしい人、また退院後の見守りが必要な人はシェアハウス居住に向いている。
- 就労継続支援B型事業所、総合事業通所サービスBの開設に興味があるが、生活保護世帯を就労する場合の配慮点について教えてください。
☞当事業所では、生活保護世帯はまだ働いていない。将来生活保護世帯が働いた際、働いた分を貯金して、ケアが必要になった際に使用できる仕組みができないかと考えています。
- 共生サロンで健康麻雀を行っているが、許認可は必要でしょうか。
☞許認可不要で風営法の対象にならない方法で対応しています。(①折り畳み式の卓を置き、常設していない②他のカルチャーも同時に行っている③射幸心をあおる行為は一切していない)

③インクルーシブな多世代交流拠点の計画・運営のためのコンソーシアムの構築

(代表提案者:今野不動産株式会社)

／令和2年度・事業育成型選定事業・令和3年度・事業者提案型選定事業実施中)

発表者 本田 勝祥(今野不動産株式会社 経営戦略室室長 執行役員)

●提案事業の概要

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた仙台市荒浜地区では、「災害危険区域[※]」に指定されて全世帯が地区外に移転するが、近年、コミュニティ活動の停滞により、子育て世代の交流の場、就労の場づくりが必要とされている。本提案は、旧荒浜住民や子育て世代の居場所づくりのため、災害危険区域である集団移転跡地を代表提案者が借用し、海辺の魅力を活かしたコミュニティファームが中心のインクルーシブな多世代交流拠点の整備を目指すものであり、特に空間計画、運営体制及び事業スキームを検討する。

[※]地方公共団体は、津波、高潮、出水等による危険の著しい区域を災害危険区域として条例で指定し、住居の用に供する建築の禁止等、建築物の建築に関する制限で災害防止上必要なものを当該条例で定めることができる制度。

●事業実施報告のポイント

◇取組の背景・提案内容

- 公共だけではつukれない、民間の自由な発想の魅力の空間づくりの追求
- 事業コンソーシアムの立ち上げ・協議会の開催(土地の活用に関する協議、2021年2月23日～4月30日)
 - *福祉事業者、NPO 法人、文化事業者、建築家、大学研究室、不動産業者、メディア、大手通信企業等で構成
- 地域住民と活動団体のネットワーク形成
(「荒浜記憶の継承みらい会議」開催、2021年3月14日)



- コミュニティファームを中心としたグランドデザインの基本計画策定 (2021年2月23日～4月30日)

◇今後の取組みの方向

- 令和3年度・事業者提案型への移行による事業実施(進行中)
 - *実施設計・施設整備／技術の検証／情報提供および普及

●質疑応答概略

- 補助事業では、造成部分ではどのように扱っていますか。
 - ☞造成部分は補助ではみていない。設計や運営面で補助金を活用しています。



↑事業実施報告のスライドはこちらをクリックして閲覧してください。

(2) クロストーク 三浦委員にコーディネートしていただき意見交換等を行いました。



三浦委員
(コーディネーター)



高橋委員長



山田委員



三喜・津田氏



コミュニティネットワーク協会・渥美氏
事業報告者



今野不動産・本田氏

①実施報告を受けて(各提案の感想・評価)

○まず、私から各報告を総評し、その後、報告者と評価委員から感想等を述べていただきたい。

○津田氏の報告は、大学研究室との連携や、クラウドファンディングをうまく活かし、地域に根差した介護事業者が防災の地域づくりを展開する先駆的な事例です。

○渥美氏の報告は、国交省が取り組む「住まいと居住支援」の見本的な事例で、特に自主事業と介護保険事業等を上手く組み合わせた事業収支の確保は、他の事業者も参考になると思います。

○本田氏の報告は、他の報告とは異なる進行途中の事業だが、実に地域の多彩なメンバーを切り盛りし、興味深い取り組みです。

[三浦委員]

●交流・防災等の多機能を組み合わせる工夫は、各提案とも共通し、ヒントになる

○本日の皆様の報告を聞いていて、団体ごとに色々な取り組みをされ、方法は異なるが、福祉や防災等の同じ基盤に立っていることを認識しました。

[津田氏]

○我々が進めている「多摩プロジェクト」の拠点でも、防災拠点の役割を組み入れる必要があり、本日の「サツキ PROJECT」の報告は参考になりました。またソーシャルファームの在り方を模索する上でも、インクルーシブな多世代交流拠点の報告も参考になりました。

[渥美氏]

○事業運営について、各活動が苦勞していることが理解できました。本日紹介いただいたクラウドファンディングの導入は我々も検討したいので、是非知恵をいただきたいです。

[本田氏]

●日常からの防災の備え、社会的弱者同士の支えあい等、

提案毎にイノベーションとなるテーマがあり、一般への波及を追求する必要がある

○大変に刺激的な報告でした。提案事業を通じて示唆された内容を、きちんと受け止める必要があると思います。例えば、最近、駅前広場や公園等でベンチやごみ箱さえ置いていないヒューマンスケールを無視した空間を見かけ愕然としたことがあります。本日の本田氏のインクルーシブという概念は、今日的な課題を考える上で刺激的であり、他の2提案にも、大事な示唆が含まれています。

○本モデル事業の評価をさせていただく機会を与えていただいたが、提示・示唆された内容をきちんと標準モデルに組み込んでいく努力が必要だと思います。国土交通省は、本モデル事業の意義を整理し、全国に発信してもらいたい。

[高橋委員長]

○冒頭の高橋委員長の挨拶の「イノベーションを期待している」という言葉の通り、興味深い報告でした。

○津田氏の報告に関連する話として、分譲マンションで日常的な管理だけでなく、「防災に備え」という観点を入れることで、いま必要な対応、将来必要な対応等、時間軸をつなげたグループができやすいということがあります。日頃から馴染んでいる場所こそ、万が一に備えて一貫通貫した体制が組めると思います。

○渥美氏の報告は、社会的弱者が互いに支えある仕組みづくりで、異なる弱さは逆に異なる強さになり、助け合いの仕組みになる。非常に示唆的なプロジェクトです。

○本田氏の報告は、「記憶の継承」というキーワードが大事だと思います。そこに文化と歴史があるからこそ、そこに住み続けることにも意味を見いだせるため、多世代でどのように関連づけていくかが課題と思います。

[山田委員]

●「健康麻雀」を総合事業の位置づける自治体もあり、好事例として活用してほしい

○渥美氏の報告について質問だが、介護保険総合事業の「通所サービスB」は、あまりメニューのバリエーションがなく、全国でも健康体操ぐらいしか認められていないのではないと思うが、豊島区では「健康麻雀」が認められています。自治体に理解してもらうためには、相当な苦勞があったのではないのでしょうか。 [三浦委員]

○「健康麻雀」について説明すると、我々は住まいの提供と居住支援をセットで行うため、豊島区の関係各課と横断的に協議してきました。そのため「健康麻雀」は何を目的とするか等、説明し理解していただくことができた結果だと思います。 [渥美氏]

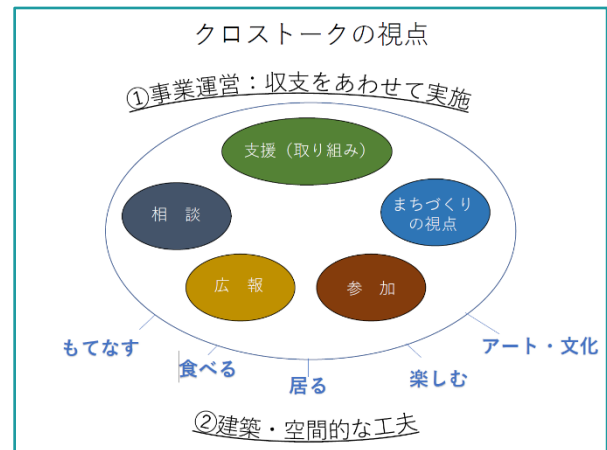
○豊島区で通所型サービスBに「健康麻雀」を認めてもらえた意義は大きい。自治体との交渉では、他に前例がない内容は認められにくいので、この事例を先例として、皆さまの各自治体との交渉にぜひ役立ててください。 [三浦委員]

②クロストークで議論したい2つのテーマ

○今日は、事業者交流会のため、選定事業者が共通するテーマを設定し、意見交換したい。スライドをご覧ください。

○ひとつ目のテーマは、「事業運営」について。提案事業の多くは、色々な活動が組み合わさって成立しています。これらを組み合わせることで、事業収支を確保しやすい等、期待できる効果や苦勞している内容についてご発言いただきたい。

○ふたつ目のテーマは、「建築・空間的な工夫」について。人が集い、活動するためには、それに相応しい建築・空間の設えや計画づくりが必要で、その点についてお話いただきたい。 [三浦委員]



<テーマ1 事業運営について>

●クラウドファンディングは、資金調達だけでなく、活動の周知、参加の呼び掛けのきっかけになる

○津田氏から、提案事業で活用されたクラウドファンディングについてお話願います。 [三浦委員]

○私たちは、「READYFOR の晴れ！フレ！岡山」(中国銀行と山陽新聞とのタイアップ)のクラウドファンディングを活用。当初はクラウドファンディングを活用することに迷っていました。

○クラウドファンディングを活用することで、資金調達以上に、自分たちの活動をたくさんの人に知ってもらえ、たくさんの人たちと繋がることができました。クラウドファンディングを活用したことで、資金調達よりも、たくさんの人が応援してくれる機会になり、大きな力になりました。 [津田氏]

<参加者との質疑応答>

質問:クラウドファンディングは興味があるが、寄付者への返礼等、事務的な負担が懸念されます。具体的にはどのようなご苦労がありますか。

○クラウドファンディングの会社に寄付への返礼の仕組みは備わっているものの、間違いがあったら寄付してくれた方に非常に失礼なので気をつかいました。お礼として、例えば、サバイバルナイト(夜のアパートで防災お泊まり会)等も企画していましたが、コロナで中止になりました。予想外なことが起こるとも想定し、対応が必要だと思います。[津田氏]

質問:資金への返礼や、現地での体験型リターン等は、どういう過程で考えられたのですか。

○当時はコロナを想定していなかったため、返礼等はイベント形式のものが多かったです。また、被災地のため、たくさんの支援や応援ももらったので、今度は私たちから皆さんの役に立ちたい、地元のおばあちゃんたちが作ってくれたぬいぐるみ等も返礼にしました。自分たちの持っている力などを発信するという活用もできるのかなと思います。[津田氏]

○渥美氏の報告でも、「参加型クラウドファンディング」のキーワードが出てきました。 [三浦委員]

○「参加型クラウドファンディング」は、学習会に参加する方々を中心に広がり、返礼品としてイベントやセミナーに参加できる仕組みです。参加者との関係をつくるためにも良い機会づくりになっています。 [渥美氏]

●持続的な運営の収支の組み立て、効果的な広報の工夫の例を紹介する

○渥美氏からは、補足スライドを用意いただいております。まずは豊島プロジェクトの事業収支等について。本日は豊島プロジェクトが中心でしたが、当団体は令和2年度に別のプロジェクトも選定されており、このプロジェクトの取り組み状況の説明もお願いします。 [三浦委員]

【持続的運営のための収支】

○収入は、自主事業の売り上げ(健康麻雀サロン、卓球、場所貸し)、介護保険2事業、豊島区からの補助金(障害者事業は来期収入予定)。支出は、家賃、管理費、人件費。

○来年度、ようやく収支が黒字に転する予定。

【広報の工夫】

○記者懇談会を定期的開催(10~15名)、これまでも新聞等色々な媒体で紹介してもらっている。その他、SNS、フェイスブック等での発信。

○「孤立」「貧困」のキーワード検索の結果、問合せしてこられる記者さんもあった。

【建築の工法の工夫】

○私たちが取り組むは、「DIY(Do It Yourself)」でなく、DIT「Do It Together」。工事現場を開放し、子供から高齢者まで地域の方々に工事に参加してもらい、コミュニティづくりに寄与しています。近くの都立高校の学生が来て、コロナで減った課外活動の代わりになっている。シニアの方々も参加している。

[渥美氏]

項目	内容	金額	
収入	①自主事業	①健康麻雀サロン・教室 (120) ②卓球教室 (20) ③場所貸し (ヨガ、食事イベント) (20)	160
	②介護保険事業	つながるサロン (豊島区通所サービス) ①健康麻雀 (40) ②将棋 (40)	80
	③障害者事業	就労継続支援2型事業所の施設外就労 (6人)	792
	計	1032	
支出	家賃+光熱費	300	
	運営費	一般管理費 (消耗品費、通信費、雑費)	100
	人件費	360	
	計	760	
収支	合計	272	

↑説明使用のスライドはこちらをクリックして閲覧してください。

●地区単体で解決できない課題は、地域レベルで展開して解消する

○次いで、令和2年度採択された「団地プロデュース型コミュニティ再生計画」について紹介したい。多摩ニュータウンの再生・活性化のため、東京都住宅供給公社保有の商店街にある空き店舗(約300坪弱)を交流拠点に活用する取組。1年前から、地域住民参加型学習会を月1回、開催し地域課題を解決するための学習会を開いている。その中から料理教室・卓球サロン、コミュニティカフェ、アフタースクールなど地域の皆さんによるコミュニティビジネスが生まれている。八王子市産業政策課も応援してくれ、地域住民主体の活動がビジネスになりつつある。

○本事業を通じて、隣の空き店舗にも入居者が入り、センターが再生・活性化する兆しがある。

○団地単体では成立しない課題を、複数団地を連携させ解決していくことを取り組んでいる。松が谷団地では、介護保険外のデイサービスと障害者就労支援と交流スペースを立ち上げ、愛宕団地では、介護保険デイサービスと交流スペースを設置予定。金銭に余裕がある人には介護保険外のデイサービスを、余裕がない人には介護保険のデイサービスの利用を誘導し、地域全体で運営する。本プロジェクトにかかわった人を団地プロデューサーとして育成し、他地域に波及していくことを考えている。

[渥美氏]

○事業の苦勞を含め紹介いただき参考になりました。事業者の考えの押し付けでなく、潜在的な地域のニーズや能力を引き出し、そのためにどういう場や空間を用意すべきなのか考えられています。

[三浦委員]

●日常生活の延長を施設運営に取り組むことは、持続的な運営に寄与する

○本田氏からは事業の取り組みの工夫についてお願いします。

[三浦委員]

○我々は資金をどう確保するかが懸案事項で、本日クライドファンディングや返礼品等の事例を伺い参考になりました。

○対象地区は「災害危険区域」で何も資源がない場所で、海のような環境資源を生かしながら基本戦略を組み立てるため、事業育成型で取り組んでいました。

○今後は非日常ではなく、日常の延長線でどのように活動を展開できるかを考えていきたい。例えば、クラブ活動みたいに、園芸部やシェアキッチンで文化系の活動、スタジオでの吹奏楽とか、いろいろ考えていきたいと思います。

[本田氏]

<テーマ2 建築・空間的な工夫について>

●デザインは、空間の設えだけでなく、空間をどのように活用したいのかを誘導する上でも重要

○ふたつ目のテーマ、「建築・空間的な工夫」の意見交換に移ります。まずは山田委員から自身の研究成果をもとに作成されたホームページから、参考事例や建築の工夫の紹介をお願いします。

[三浦委員]

○制度が色々変わり、近年は、様々な事業を組み合わせ、新しい事業を組み立てることが試されている時代と感じます。例えば、高齢者施設をつくりたいと考えても、その先行事例だけを勉強するのではなく、色々な取り組みを横断的に学び、知見を共有することが大切と考えます。

○本サイト(Projects' CATA-Log。閲覧は右の画面をクリック)は、日本建築学会他、様々な共同組織の協力で作成し、福祉と住まい・まちづくりの色々なプロジェクトを検索でき、デザイン性や意匠性を意識してまとめています。デザインは、空間の設えだけでなく、その場をどう活用したいのかをコントロールする観点でも大切と考えます。



↑ Projects' CATA-Log はこちらをクリックして閲覧してください。

[山田委員]

●DIYは参加者同士の結びつきを強くする。人が集う空間をつくるために、人が留まれるデザインが必要

○「文化住宅を改修したオープンスペースを地域の居場所と地域再生の拠点」に活用した「公益社団法人 青年海外協力協会JOCA大阪」の事例を紹介します。古い文化住宅をデザイン性高く改修した事例です。内装や家具も、事業メンバーが地域住民の協力を得てDIYでつくりました。渥美氏の報告にもありましたが、DIYを通じて当事者同士の結びつきを強くしています。デザインは、内部空間をコーディネートするだけでなく、その実現に至るプロセスも重要であると考えます。



↑ 事例紹介ページはこちらをクリックして閲覧してください。

○JOCA 大阪のオフィスを地域住民が自由に使えるよう開いており、ここではセルフサービスでお茶を飲める場所があることが特徴です。マイカップ棚が置かれ常連を生む仕組みができています。がんに影響を受けた人たちを支援する拠点であるマギーズ・センターにおける、訪問者がその場に主体的な役割や居場所を見出すため、自分自身でお茶を淹れることが大事という活動と同様の考え方がなされています。

○デザインというのは意匠上のデザインだけではなく、その場所をどう使っていくのかも含めて広く参考になる例として紹介しました。

[山田委員]

○収録されている事例のいずれも、ポイントや工夫点、ユニークな形を作っていくプロセスも含めて紹介していますので、ぜひご覧いただけたらと思います。

[三浦委員]

③本日のまとめにかえて

●モデル事業には、空間の魅力づくり、社会的な新しい試みを仕込むことを期待したい

○モデル事業に選ばれる取り組みは、ひとつの機能だけでなく、居場所、相談、支援、まちづくりなど同時にいくつかの役割を担っています。ところが、その役割が地域や社会に深く浸透するかどうかは、空間的な魅力を併せ持つことも重要になります。

○空間的な魅力がきちんとあり、さらにその魅力が核となって、居場所、相談、支援、まちづくりなどの活動に広がっていく。クラウドファンディングなどの社会的に新しい試みもその一つの広がりといえます。こうした広がりのある取り組みを応援したいと思っているので、皆様方には、空間を大事にしながら、事業全体をうまくコーディネートしていただきたいと常々期待しています。

[三浦委員]

●提案者の努力だけでなく、モデル事業を社会的にアピールすることも行うべき

○モデル事業について理解している人は理解していますが、そうでない人にはあまり理解されていないのが実情。モデル事業も一般に広まってきたことから、相互を隔てる壁を突破することを考えていくことも必要と考えます。

○本日報告の各取り組みでも、関心のない人たちに関心を寄せてもらうための工夫や力技をやってきたことの成果がみられます。こうした事業への理解を広めるためには、各提案者の取り組みだけでなく、モデル事業全体を社会にアピールしていく必要があると思います。最後に私の感想として述べさせていただきます。

○本日はご参加の皆様も含め実り多い時間を過ごすことができたと思います。ありがとうございました。

[高橋委員長]

3. 閉会

皆様、本日はお忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

事業者交流会は皆様のご意見を伺いながら、より意義のある会にしていきたいと思えます。

また閉会后、本日参加者同士の連絡先を交換できる時間を15分程度設けておりますので、チャットメールをご活用いただきながらご連絡の交換をいただければと思います。

それでは、これもちまして事業者交流会を閉会させていただきます。